



1

2

3

箱に詰めた、ふるさとの香りと思い—

毎年5月に開かれる「サラダ玉ねぎ収穫体験」。収穫後は、小学生が「段ボールデザイン」「箱詰め」「お礼の手紙の収納」も手がけました。小学生や先生、農家に話を聞くと段ボールには入りきれないほどのたくさんの思いが詰まっていた。



4



5

1_トラックいっぱい積まれたサラダ玉ねぎ。全国の購入者へ届けられた/2_出荷された箱の中には児童からの感謝の手紙とつなぎFARMのパンフレット/3_サラダ玉ねぎの根と葉を切る作業。意外と難しい/4_重さを調整しながら箱詰め/5_大きくなったサラダ玉ねぎをいざ収穫

5月20日金、3、6年生が津奈木保育園近くの畑でサラダ玉ねぎの収穫体験。JAあしきた津奈木青壮年部・女性部の協力のもと、収穫に臨みました。苗植え、草取りなど、苦勞を乗り越えて育てたサラダ玉ねぎ。小学生は一つひとつ丁寧に収穫し、コンテナで運びました。元は耕作放棄地だったこの畑ですが、つなぎFARMの取り組みにより以前のような景観と栄養のある、豊かな畑へと復活。こゝしは約3・5tのサラダ玉ねぎを収穫できたそうです。

収穫されたサラダ玉ねぎは、同月24日(火)に5・6年生によって購入者への感謝の手紙と一緒に、全国へ届けられました。出荷された箱には、現在の2・3年生によって津奈木町の名所や特産物が色鮮やかに描かれています。これは「全学年がこの取り組みに関わってほしい」という先生の思いからでした。

ほとんどの学年がそれぞれの役割で取り組んだ本事業は、ウェブページの見出し文にあった「学校で会社を経営している」ような取り組みとなり、新聞各社にも取り上げられました。



参加者の声



物の「価値」について考える

教頭
今嶋 英明 さん

最初は本当にできるのだろうかと不安もありました。しかし小学生たちは見事にやり遂げ、とても感動しました。今回の取り組みの目的は、物事を多面的に見てもらうこと。そしてサラダ玉ねぎの生産から販売までの全てに携わるという「キャリア教育」を受けてもらうことです。特に、販売に携わることで物やお金の価値を考える機会があったことは小学生たちにとって貴重な経験だったと思います。

この素晴らしい取り組みがさらに盛り上がるよう、保護者の皆さまや津奈木町の発展に関わる人たちのご協力をいただければ幸いです。



サラダ玉ねぎを思い出の1ページに

JA あしきた津奈木青壮年部長
林 辰徳 さん(倉谷)

小学生に町の特産物であるサラダ玉ねぎができるまでの作業を体験してもらい、農業に少しでも興味を持ってもらえたらうれしいです。農業体験で収穫や出荷だけでなく、自分たちで売り込む。このような貴重な経験をしたことは良い思い出になるのではないのでしょうか。これから小学生が会う人たちにその思い出と一緒に町の魅力も伝えて欲しいです。

未来を担っていく小学生が、町の特産物やそれに関わる人たちと直接ふれあうこの事業をもっと多くの人に知ってもらい、少しでも農業の活性化につながればと思います。

大事な言葉は「要素分解」

6年生
野崎 雅貴 さん(中尾)



ウェブページを作るときに、サラダ玉ねぎを多面的に見て要素分解し、商品として魅力的な部分と逆にマイナスな部分について考えました。また、若い人にも興味を持ってもらえるよう、流行語を紹介文に取り入れたことも工夫の一つです。本当に売れるのか心配でしたが、完売したことを知りとても驚きました。

今回学んだことは、インターネットを通じて画面の向こう側には人がいることをよく考えることです。サラダ玉ねぎを買ってくれる人のことを思い、ウェブページを作ったことはとても良い経験となりました。

体験して知った、農業の大変さと楽しみ

5年生
濱田 悠伸 さん(丸岡)



農業体験の中で楽しかったことは、苗植えです。広い畑全てに植え付けが終わったときは、とても達成感がありました。一番大変だったことは、収穫したサラダ玉ねぎの根と葉を切る作業です。1軒くらい間を空けないと、皮が割れて見栄えが悪くなってしまいます。買ってくれた人においしく食べてほしい。そして来年も買ってもらいたい。そんな思いで、作業を頑張りました。

来年は私たちがウェブページを作ります。より多くの人に心を込めて作ったサラダ玉ねぎを届けられるよう一生懸命取り組みたいです。